

直観的 UI と勤怠アラート機能が毎日の運用業務を効率化  
勤怠締め処理を前倒して、月次損益、決算の早期化も実現



業務統括部副統括部部長  
佐藤 正人 氏

業務統括部人事総務担当  
鵜飼 裕香 氏

**株式会社 New デイシス**

事業内容 : 矢崎グループ会社システム開発・運用・保守、オリジナル製品開発・販売・運用  
 従業員数 : 152名 (男:116名 女:36名) 2015年1月現在  
 会社設立 : 2007年6月1日  
 所在地 : 静岡県静岡市葵区御幸町 4-1 アーバンネット静岡ビル 5F  
 代表取締役 : 赤池 利幸  
 資本金 : 1,000万円

自動車電装系配線部品等で世界首位を含む高いシェアを持つ矢崎総業グループの1社。社員約150名の平均年齢約37歳とグループ各社と比べて比較的若い同社は、矢崎グループのITオフィシャルパートナーとして、グループ各社の業務システム設計・開発・保守・運用を行っています。



◆ 導入経緯

— 導入に到るまでの経緯について教えてください

**佐藤 :** 勤怠管理・給与計算業務用のパッケージを導入する検討を始めたのは約6年前のことです。当社はもともとITの会社ですので、勤怠管理等のシステムも自社で作ることができ、実際当時は自社製システムを運用していました。ところが、運用開始後のアップデートが追いつきません。いくらITに強いとは言っても、勤怠管理システムがお金を稼いでくれるわけではありませんので、どうしても対応が後手に回ってしまうのです。それがパッケージ導入検討を始めた動機です。

— 具体的にはどのようなアップデートが必要とされたのでしょうか？

**佐藤 :** 関連法令、たとえば労働基準法等の改正は頻繁にありますので、それに応じて勤怠管理システムも更新しなければなりません。ですから、そのような必須のアップデートに対応できることが第1の課題でした。

— それ以外にも解決すべき課題はありましたか？

**佐藤 :** 勤怠管理システムのデータを給与計算システムに連携させることが出来ず、手作業でのデータ転記業務に毎月多くの労力がかかっていました。これを解消することが第2の課題でした。

— パッケージ導入への反対意見はありませんでしたか？

**佐藤 :** 自社でも作れるし実際今まではそうしてきたわけですから、反対の声はありました。しかし、それでは最も重要な第1の課題を解決できません。また、自前で作っていたら世の中の標準というトレンドといったものが見えなくなることも感じていましたので、作らずにパッケージを導入する方針で最終的に社内をまとめました。

◆ OZO 選定のポイント

— 「ManageOZO」を選定したポイントを教えてくださいませんか？

**佐藤 :** おおまかに次の3項目を重視しました。

基準1：関連法令の改正に機敏に対応されること  
 基準2：給与処理等を行う既存のシステムと連携できること  
 基準3：直観的に使いやすいUIを備えていること

基準1、基準2はそれぞれ自社製システムでできていなかった第1、第2の課題への対応です。基準3はシステムの移行にともなうユーザー教育コストや運用ミスを減らすために重要であろうと考えた項目です。

従業員が毎日入力していく勤怠システムを使うのに、そのたびにマニュアルを読んでもはいられませんので、直観的に入力できることが必要でした。

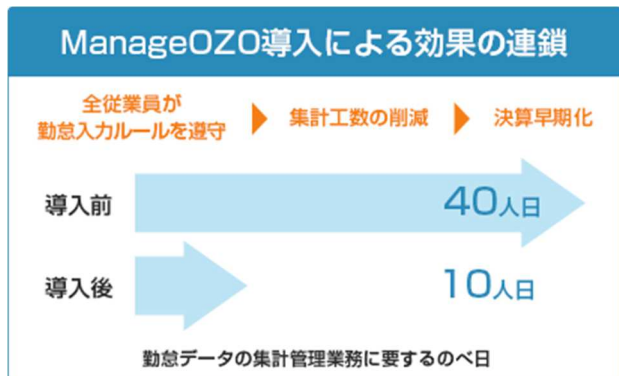
**鵜飼**：私はもともと他社で人事関係のシステムを作る側の仕事をしていたのですが、それと比べても、細かいところでよく考えられていて直観的に迷わず使えるUIで、助かっています。従業員からの不満の声もほとんどありません。

#### ◆導入効果と課題

##### —ManageOZO の導入で苦労した点と、得られた導入効果を教えてください

**佐藤**：導入決定後運用開始までの半年の間に、システムに詳しくないユーザーを導入プロジェクトメンバーに引き込んで、使う側の目線でワークフローを考え、手順書を作って、教育体制を整えました。導入準備中には ITCS 様のご担当者様から大いにご協力をいただいたこともあって、運用開始まではあまり苦労しませんでした。苦労しているのは、運用開始後にルールを守ってくれない従業員がいる、といったところです。それも運用ルールに縛りかけられるという、機能的に優れた仕様のおかげで助かっています。

**鵜飼**：自社製システムにはなかったアラート機能が便利でとても助かっています。たとえば社員が規則以上の残業をしていたら、上司や本人に注意喚起したり手続きをしてもらう、そのためのルールを設定しておくアラートを出してくれるので、毎日の運用が楽になりました。必要なルール設定の自由度も高いので助かりますね。



##### —工数削減などの数値的な効果はどのくらいありましたか？

**佐藤**：第2の課題だった膨大なデータ転記作業の解消が大きいですね。以前は勤怠のデータを給与計算に渡すために3人がほぼ半月がかり、約40人日かかっていました。CSV出力機能がないから画面を見ながら手入力で転記するとか、集計機能が無いので電卓を叩くとか、そんな不毛な理由で手間がかかっていたのです。ManageOZOを導入したことで不毛な単純作業は不要になり、現在では10人日ぐらいまで減らすことができました。既存システムとの連携性が高いのは本当に助かります。

##### —その他に、予想していなかった効果も得られたとのことですが、具体的には？

**佐藤**：決算の早期化です。会社の施策を、必要な時に機敏に修正していくためには経営陣が会社の経営実態を素早く把握できることが求められます。労務費を集計して月次の損益計算書に反

映させるまでのリードタイムが短くなった分、決算の早期化にもつながりました。このことは事前には予想していなかった効果なのですが、管理会計上、大きな意味がありますね。

##### —今後の展望について教えてください

**佐藤**：OZOの適用範囲を拡大すること、具体的には経費入力についても導入しようと考えています。勤怠と経費のデータはどちらも全従業員に入力してもらうものですので、操作系を統一したいのです。UIの優れたOZOを共通プラットフォームにしていきたいと考えています。今後もOZOシリーズにはお世話になりますので、引き続き良い製品を期待しております

(敬称略)

#### ❖取材後記

OZOの導入を検討するきっかけとなった課題、判断基準、導入効果等の経緯をにこやかに、率直に、わかりやすくお話し姿が印象的でした。

工数削減や決算の早期化などの導入効果を得られておりますが、今後もご期待に応えるべく、常に製品成長を続けていく思いを改めて強くなりました。

お忙しいところ取材にご協力頂きましてありがとうございました。

#### 企業情報

株式会社 ITCS  
URL: <http://www.itcs.jp>

本社所在地  
〒450-0003  
名古屋市中村区名駅南一丁目17番29号  
広小路ESビル8階 [地図]  
Tel: 052-217-2488 / Fax: 052-217-2489  
東京支店  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿1-36-4 丁子屋ビル3F [地図]  
Tel: 03-3359-9230

ITCS